

RS ウイルス感染症の定期接種(母子免疫ワクチン)接種前説明書

【対象者】

接種時点で、妊娠28週0日から36週6日目までの妊婦の方

- RS ウイルス感染症にかかったことのある方も接種できます。
- 過去の妊娠時に RS ウイルスワクチンを接種されたことがある方も、今回の対象期間内に接種を希望する場合接種することができます。
- 接種後 14 日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠 38 週 6 日までに出産を予定している場合は医師に相談してください。

【接種回数（接種方法）】

妊娠ごとに1回（筋肉内に接種）

【RS ウイルス感染症とは】

RS ウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。

感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。

【母子免疫ワクチンとは】

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

【母子免疫ワクチンの効果】

RS ウイルス感染による医療受診を必要とした	生後90日時点	生後180日時点
下気道感染症の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
重症下気道感染症(※)の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※ 医療機関への受診を要するRSウイルス関連気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO2 93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義されています。

【ワクチンの安全性】

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
10%以上	疼痛*（40.6%）、頭痛（31.0%）、筋肉痛（26.5%）
10%未満	紅斑*、膨張*
頻度不明	発疹、蕁麻疹

*ワクチンを接種した部位の症状 添付文書より厚生労働省において作成

【接種費用】

対象期間内は無料（佐世保市に住民票のある方が県内の実施医療機関で接種を受ける場合）

※里帰り等により長崎県外で接種する場合、必ず接種前に佐世保市での手続きが必要です。また、長崎県外で接種する場合は、一部自己負担が必要となる場合があります。

裏面へ続く

予 防 接 種 を 受 け る 前 に

予診票は、接種をする医師にとって、受ける方の健康状態を知り、予防接種の可否を決める大切な情報です。本人が記入して、正しい情報を接種する医師に伝えるようにしてください。

本人が自署できない場合は、家族などが本人の意思を確認した上で、接種する方の氏名を予診票の下段(予防接種希望書)に代筆し、代筆者氏名、続柄を明記してください。

また、接種を受ける方が16歳未満の場合、同伴ではなくても、保護者の同意署名が必要です。

1 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（通常は37.5℃以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人
- ③ 予防接種の接種液の成分で、アナフィラキシー（接種後、約30分以内に起こるひどいアレルギー反応）を起こしたことが明らかな人
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した人

2 予防接種を受ける際に、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 接種によって妊娠高血圧症候群の発症リスクが上がるという報告もあるため、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方（海外において一部報告があるものの、薬事承認における臨床試験では発症リスク増加はなかった。）
- ② 筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方
- ③ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患や血液疾患等の基礎疾患で治療を受けている人
- ④ 過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がみられた人
- ⑤ 今までに、けいれんを起こしたことがある人
- ⑥ 今までに、免疫不全の診断がされている人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑦ このワクチンの成分に対して、アレルギーがあるおそれのある人

※ 医師の説明を聞いた上で、予防接種を受けない（「受けることができない」を含む）で、出生した児がRSウイルス感染症にかかり、万一重症化、死亡が発生しても、担当した医師にその責任を求めることはできません。

3 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、海外の知見で、百日せきを含むワクチンとの同時接種で、百日せきに対する免疫応答が低下するとの報告があることから、三種混合ワクチンを希望する場合は、接種間隔等を医師と相談してください。

4 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがありますので安静にしてください。
- ② 入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこするのはやめましょう。
- ③ 接種後、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。

5 予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障がいが残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

接種を受けたご本人及び出生した児が対象となります。制度の利用を申し込む時は、予防接種を受けた時に住民票を登録していた市町村にご相談ください。

お問い合わせ先：佐世保市保健所 感染症対策課 電話 0956-25-9646